

高齢者等インフルエンザ予防接種の前に

ご本人またはご家族がお読みください

◎インフルエンザ予防接種の効果

予防接種を受けてから効果が現れるまで約2週間程度かかり、効果の持続は約5か月間とされています。接種を希望する方は、インフルエンザが流行する前の12月中旬までに受けておくことが望ましいです。

また予防接種を受けることで感染を完全に阻止する効果はありませんが、インフルエンザの発病を予防することや、発病後の重症化(肺炎や脳症等)や死亡を予防することに関しては一定の効果があるといわれています。

◎予防接種の副反応

<一般的な副反応>

局所症状:発赤、腫れ、痛みを認めることがありますが、2~3日で消失します。

全身症状:発熱、頭痛、さむけ、倦怠感を認めることがありますが、2~3日で消失します。

過敏症:まれに、接種直後から数日中に発疹、じんましん、発赤とかゆみなどがあらわれることがあります。

<重大な副反応>

ショック・アナフィラキシー様症状:まれに、じんましん、呼吸困難などが30分以内に現れます。

その他:ギランバレー症候群、けいれん、急性散在性脳脊髄炎、肝機能障害、黄疸、喘息発作など。

◎予防接種を受けることができない方

①発熱がある方(37.5度以上の発熱)

②重篤な急性疾患にかかっている方

※「重篤かつ急性」の病気にかかっている場合、病気の進行状況が不明であり、このような場合は予防接種を行うことができません。

③予防接種の接種液の成分によりアナフィラキシーを呈したことがある方

④インフルエンザの定期接種で、接種後2日以内に発熱のみられた方及び全身性発疹等のアレルギーを疑う症状を呈したことがある方

⑤その他、接種医師が予防接種を見合わせるべきと判断した方

『アナフィラキシーショック』とは、通常、予防接種後約30分以内に起こるひどいアレルギー反応のことです。発汗、顔が急にはれる、全身にひどいじんましんが出る、吐き気、嘔吐(おうと)、声が出にくい、息苦しいなどの症状に続き、血圧が下がっていく激しい全身反応です。

裏面もあります

◎予防接種を受ける際に、主治医と十分な相談が必要な方

- ①心臓、じん臓、肝臓、血液等の基礎疾患にかかっている方
- ②過去にけいれんを起こしたことがある方
- ③過去に免疫不全の診断を受けた人、近親者に先天性免疫不全症の方がいる方
- ④ワクチンの成分に対して、アレルギーが起こるおそれがある方
- ⑤間質性肺炎、気管支喘息等の呼吸器系疾患を有する方

◎予防接種を受けた後の一般的注意事項

- ①予防接種を受けた後 24 時間は副反応の出現に注意しましょう。
特に、接種直後の 30 分以内は健康状態の変化に注意しましょう。
- ②ワクチンを接種した日に入浴することは構いません。体調が悪い時は無理をせず様子を見るようにしましょう。
- ③予防接種後 24 時間は、激しい運動や過度の飲酒などは避けましょう。
- ④接種後、接種部位の異常や体調変化がある場合は、速やかに医師に相談しましょう。
- ⑤インフルエンザワクチンは、医師が必要と認めた場合、新型コロナワクチンなど他のワクチンと同時接種が可能です。また接種間隔に制限はありません。

◎予防接種健康被害救済制度について

インフルエンザ予防接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障が出るような障害を残すなどの健康被害が生じた場合に、厚生労働省によりワクチンとの因果関係があると認定されると、予防接種法に基づく救済（医療費等の給付）を受けることができます。